



台風19号 光と影

令和元年10月12日未曾有の巨大台風19号が首都圏に向かって来た。大潮・高潮が満潮の時間帯と重なって伊豆半島・神奈川・東京に上陸する確率が高かったことから、津波並みの甚大な被害が出ないか心配でした。高潮災害は無かったものの、堤防の決壊が相次いで、洪水被害が激甚災害をもたらした結果からも、原因は、

国土強靱化(内政)を疎かにしていた政府・政権による人災でもあります。もうろくを極めている与党幹事長の「…まずまずに収まった」発言は、(翌々日に撤回したものの)被災者を全くの他人事と捉えての、本心からの発言でしかない。2011年9月28日に発生したチェンマイ大洪水に引き続き、翌日アユタヤ・バンコクの工業団地でも大洪水に見舞われたニュースは日本でも大きく報道された。(本誌発刊10号 添付に詳細報告)Pure/Thai マッサージ店も床上浸水で、物的・休業損失が発生したが、多くの救援が寄せられ早期に復旧することができた。(あの時、救援にご協力頂いた方々には改めてお礼申し上げます)天災でも、人災でも手に負えない被災を蒙った場合は、救援に頼らざるを得ない事を体験した。今回の台風で亡くなった方や被災された方々にお悔やみとお見舞いを申し上げる以上の事はできませんが、ご冥福と、回復・復旧をお祈り申し上げます。



台風19号衛星画像

只、今回の台風が『想定外』の記録的な雨量と水害をもたらしたにも拘らず、『想定外』という言葉がほとんど聞かれなかったのは、『想定以下だった』という認識だったのかも知れない。だから、老害幹事長がつい口走ってしまったのではないかと疑義・疑念を抱いている。



『コンクリートから人へ』等とポピュリズム丸出しのスローガンを掲げて国民の期待を100%裏切った政党が中止させたハツ場ダムが今回の台風で多くの人を救った。というニュースと共に、『想定以下』処ではない大災害をもたらした台風だった事が明らかになって来た。又、中止撤回を余儀なくされた、民主党は間もなく崩壊した。

2019年10月1日に 試験湛水を開始し、2~3か月かけて満水にし、不具合箇所を調べる予定だったものが、この台風による豪雨で、一両日で満水危険水域にまで達しそうな時、放水するか否か判断せざるを得なかったダム管理者が誰かは知らないが、ギリギリまで放水の決定を下さなかった。

同様に、相模川上流の城山ダムでは、午後5時頃放水予告を出し、一時延期して改めて10時に放水すると予告し、30分繰り上げ9時半に放水を開始したと伝えられている。事のよし悪し、結果のよし悪しよりも、ダム管理者の苦悩が思いやられる。

8年前のチェンマイ大洪水では、洪水5時間前から予告が出され、放水が開始された様に記憶している。豪雨という天災と、人事を尽くしても制御不能という人災で災害が発生しているから、「まずまず…」などと云う受け止め自体不謹慎極まりない！ハツ場ダムと、城山ダムだけでなく、数十ヶ所に及ぶダムや治水設備に関わっていた多くの人たちの懸命な取り組みと判断・行動力によって今回の水害の光と影が映し出されていると受け止めるべきだろう。

治山・治水・水力発電促進の観点(国策)からも、このような大型ダム建設は、今後数十ヶ所必要ではないか。「国の借金1000兆円」などと嘘を吐き続けていないで、国の資産1700兆円を吐き出す国策を練るのが、国家公務員(官僚)の仕事ではないのか。

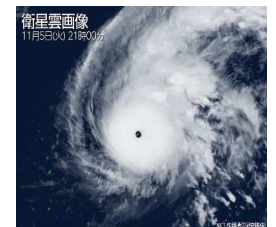
今回注目を浴びたハツ場ダムの動画がアップされていたのでご覧下さい。

- <https://www.youtube.com/watch?v=TcOWcUF0Cp0>
- https://www.youtube.com/watch?v=cJT8yhYB_ow
- https://www.youtube.com/watch?v=q-ZB_hipuM0

【ハツ場ダム】
ハツ場ダム(2019年10月1日 試験湛水開始)
令和元年10月13日ハツ場ダム



11月に入って台風23号が発生し、日本列島への影響が無く太平洋上でシュートし、何事もなく消え去った事は幸いでした。中心気圧が905hpa、中心付近の最大風速 60m/s、瞬間最大風速 80m/s=時速約300kmという、とてつもない暴風の台風でした。年を追う毎に台風の大型化、集中豪雨型が高まっているようです。今年は助かっても、来年助からない可能性は低いと考え、備える事が自助の行動でしょう。



台風23号衛星画像

天災と人災の捉え方と処し方

古来より、人類は天災に見舞われて来た。ノアの箱舟の話もそうだし、ポンペイ遺跡で知られる火山災害・地震や津波・竜巻や落雷・豪雨による洪水・山崩れ災害など、「世界中何処に居ても常に天災と隣りあわせで生きている」と云っても過言ではないし、天災に輪をかけた人災が、より多くの被害をもたらしているようにも思われる。



即位礼正殿の儀の開始時に虹が架かる

天災は、突発的自然現象であって被害に遭って(被害者になって)も、加害者は天だから訴えようがない。時の政府が激甚災害認定を下さない限りは、自己責任で処理するか、救援の協力を求めながら自助努力するしかない。

人災は、加害者と被害者がいるから、損害賠償責任が発生し、故意・過失・過失割合などで争い事になる。

天災と人災が重なった今回の大洪水に関しては、個々の事案の解決には数年の時間が掛ることが予測される。東日本大震災に関連した被災地の復興及び被災者救済が、未だに解決されない事からも想像に難くない。

地球の温暖化のせい、変動期なのか、よく分からないにしても、確実に毎年台風の大型化、集中豪雨の激甚化は進んでいる。事後処理ばかりで、『国民の生命・財産を守る最優先課題』を先送りし続けている政権・政府(は加害者)による人災でしかないと断定できるだろう。

10月22日、即位礼当日午前中激しい雨が降り、正殿の儀が開始されると同時に雨が上がり、虹が架かったというニュースは、全国はもとより、YouTubeで世界中に発信された。

私は天皇以前に、縄文人が自然の移ろいの中から日本人の精神文化を育み創り上げたという説の支持者だが、この天(自然)の絶妙な演出には恐れ入ったし、感銘を受けた。万世一系(男系・父系)で継承されている天皇家の弥栄(いやさか)を願う国民の一人であるが天皇を絶対視したり、軽々に口にすると似非保守には狡猾な腐臭を禁じえない。不敬奔放に、皇室を貶めてゼニ儲けに走っている反日週刊誌(新潮・文春)はじめ、反日国や反日日本人にも同様の腐臭を感じる。(これからは嗅覚までも研ぎ澄まさなければなりません)

嗅覚と天災・人災とどう繋がるかは、正に感性の極みであって、皇室の儀式の中に占い事があることから推測されます。男の匂い、女の匂い、これが好い匂いと感じるか、臭いと感じるか、好い匂いなら感じ続けたいし、臭ければ寄りたくもない…。何を云わんとしているかは以下の動画をご覧ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=0cz00ZNA0J4>

君が代の意味



西暦にしても、仏暦にしても、紀元にしても3千年未満に対して、縄文時代からの暦でいえば、1万数千年の歴史を刻んでいる日本人であることに矜持を感じざるを得ません。縄文人の平均寿命は25歳くらいと推定されている(想像するに、乳幼児死亡率が極端に高く、平均寿命を引き下げていて、実際には40~50代だったとは思いますが)現代人はその2~3倍以上長生きしている事になる。

先月号の巻末に掲載した、ねずさんの『日本人のメンタリティーのルーツ』で語られた縄文人のメンタリティーと、上記の『君が代の意味』とに、同じ匂いを感じる感性があれば、天災を予知し、人災を避ける備えが整えられると思いますが、短兵急に感性は生まれませんから、まずは嗅覚を研ぎ澄まし、嗅ぎ分け練習から始めてみて下さい。(と、縄文人達は云うでしょう)

激動の2019年も、残すところあと2ヶ月になりましたが、まだまだ何が起きるか分からないし、何が起っても想定外(不思議)ではないほど、日本も世界も不安定状態に置かれている事を意識されているでしょうか。この不安定さから起きるさまざまな事象をことさら大袈裟に想定外と騒ぎ立て、何の役にも立たない(助言も助成もしない、役立たず)連中が、狡猾な腐臭を振りまく張本人であり、人災を助長していることをしっかり掴んでおかなければなりません。

『人々が分からなければ、天が教えてくれる』『いつもお天道さまが見ている』『天罰が下る』等日本人には、天の声が聞こえるような五感を超えた感性を、縄文時代から育み、伝え、生まれながらに体感して来たように思います。別の言い方をすれば、良心や良識を素地とした考え方や行動が自然と取れる民族であったはずで、それを壊そうとする動きこそが人災です。

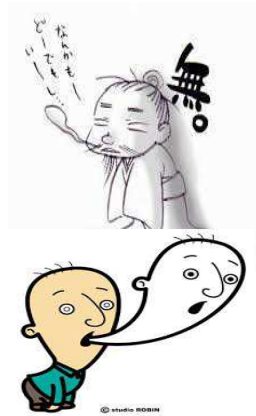


何で…？ チェンマイの日常に思う

足掛け半年にわたる雨季も雷鳴の轟きと共に明け、清々しい(イエン・サバーイ)晴天の乾季がやって来ました。毎年繰り返される雨季と乾季の季節変わり、何で…？と聞かれても分からない。この歳になっても分からない事ばかりで、何で？何で？何で？の毎日と云っても過言ではないでしょう。何で？どうして？は、生きる活力の源泉

ではないかと思っています。何とも思わず、感じず、何の疑問も持たなくなったら、魂の抜け殻が浮遊している死に体(ゾンビ)人間に変身してしまった姿のように感じます。そういう人間が有名無名に関わり無く、日本人に限らず世界中に蔓延しているのが現代社会ではないかとさえ思っています。(思い当たる面々は十指に余るでしょう)

「他民族共生」などと云ってその場しのぎの移民政策を進めている人間達がゾンビ化しているから、他民族云々、政策云々の前に、ゾンビと化したグローバリストとの共生はご免蒙りたい。(それ故にチェンマイに疎開しているという一面もある)
疎開とは云っても、10年以上在住していればれっき(歴)とした移民だ。誰に云われるでもなく共生に努力している。たいした貢献もできていないが、後ろ指を差されたり、「出て行け」等と云われたことも無い。Pure/Thai 第二ステージの展望には、参加者の利益の確保と共に現地に貢献したいという思い、更には、ゴーストバスターにも拍車をかけたいという思いがある。



本国がゾンビに牛耳られ、ゴースト列島に成り下がっては、第三ステージくつろぎのいおりJPデベロップメント処ではなくなるからです。今までの現政権批判などはゾンビ退治(ゴーストバスター)の一環だと捉えて頂ければご理解頂けるでしょう。ゾンビと共生していて、異常に感じない人は、ゾンビ化予備軍が一員でしょう。

さて、外国長期滞在者が苦勞する要件のNo1は、ビザの取得だ。米中経済戦争がエスカレートし、日韓関係が悪化の一途を辿っている中で、第二段・三段階で持ちだされるのが入国ビザ規制。(日本国内に居住する日本人には無関心な人が多いし、外国為替相場もFxをやっている人以外、一般人は殆ど無関心)

この無関心に付け込まれて、ゾンビの毒牙に掛って神経麻痺を起こし、国際感覚(日本の常識は世界の非常識)を失っている。米国在住の伊藤貴氏の話(警告)を聞いて、日本の常識の甘さ、非常識を認識しよう。

<https://www.youtube.com/watch?v=wxQ7ZQtTSxs> 対談:伊藤貴氏の警告

近々発売される書籍『反日種族主義』は、今後の日韓関係がどうあるべきか、するべきか、を考える上で是非とも読みたい本でもある。(ちなみに、先月号のお薦め本 表現者クライテリオンは、一時帰国した人を買って来てもらったばかりで、読みはじめています。)



韓国語の書籍

「日韓関係がどうであっても自分には関係ない！」まして「韓国・北朝鮮がどうだろうと知ったこっちゃない！」と切捨てようと、残念ながら地政学上切り捨てる訳には行かない。

『積極的無視論』『村八分論』なども云われているが、一時的には有効でも、根本解決には至らない。『嘘と裏切りは、高くつく』という事を身を持って知らしめる事が最も有効な手段だろう。(詐欺師を騙して身包み剥ぐ)

ホワイト国外しを一方向的に宣告し、99.9999%のフッ化水素を厳正な輸出基準審査に切り替えたら、前年の99.6%減、輸出量(100Kg:372万円)に落ち込んだとの事だ。(今までの輸入量の実態は何だったんだ)何も従価で売る必要はない。2倍・3倍・5倍の価格で売るのが、『詐欺師を騙して身包み剥ぐ』のが国際商取引の常識だ。デフレ脳に侵されて馬鹿正直な「安くしなければ売れない」思い込み取引を続けていたら、詐欺師は別の手を考えて何度でも騙しに来る。



今月のお薦め本

ものはついでに、詐欺師の身包みを剥ぐ方策として、今回の日韓関係悪化の根本原因である国家間の約束事(条約)をことごとく反故にし、強請(ゆすり)集り(たかり)の本性をむき出しにして来ている事態を好機と捉えて、輸出ビールの価格も2倍・3倍・5倍に設定する好機会だ。

反日韓国人でも、日本のビールが飲みたくて仕方がない、日本ビールの大ファンの方は半端なく多いと聞く。現政権が輸入禁止措置を敷いているから、前年対比 99.9%減で58万8千円しか売られ(飲まれ)ていないから、仕事理由で来日した韓国人は「先ずはビール」「もっとビール」で、がぶ飲みし喜んでおられるとの事だ。ビール価格の値上げは、条約反故の対抗処置だと明らかにすれば、日本への観光旅行迄も制限されている日本ビールファンの韓国民からの突き上げも現韓国政府に向かうだろう。値上げ戦略で対抗すべき日本製品を探そう。

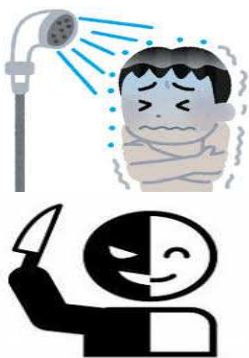


無関心という危機

自他共に認めるババボボーの権現である私の関心事は、真贋の見極めでもあります。何が本当(本物)で何が嘘(偽物)か?という事も然ることながら、オウム真理教の出現あたりから『ごっこ遊び』が世の中にはびこり、人心を乱す(惑わす)社会が出来上がるだろうという憂慮が現実のものとなり、深刻度を増しているという事です。

今、正に『今だけ・金だけ・自分だけ』の風潮が罷り通っていて、それ以外に興味・関心がないという荒んだ社会現象を作り出したのも、長引くデフレ経済政策を施行しているエリート集団の愚策である事はその通りだが、根底には『ごっこ遊び』を本物と見誤って、騙され、『マインドコントロール』に簡単に引掛ってしまう国民の脆弱性(心の隙間)にあると思っている。

オウム真理教は、『宗教ごっこ』を始めた教祖自身が「最終解脱者」と云う一言で、見極めがつかなかった信者たちの責任で、『死刑』という対価を払わされた。その後現れたIT社会の寵児と持て囃されたホリエモンも、『セレブごっこ』中に、(有価証券報告書虚偽記載)詐欺罪で有罪になり実刑を受け、服役後も当時の被害者に対し損害賠償請求に応じていない。大阪維新の会の発起人でもある橋下徹氏・N国党代表の立花氏・れいわ新選組の山本太郎氏なども『政治ごっこ』をやっているように見える。鳩山・小沢氏は言うに及ばずお手玉遊びだ。本物の宗教家・事業家・政治家もどきの、『ごっこ』が罷り通っていて、無自覚・無関心でいる事が遊ばれているという事だと云う事を国民が分かっていない事が危機だと指摘したい。



『事』を4つも続けては、変な文章になってしまうが、正に事件ではないだろうか? 各々の信奉者にとっては、とんでもない暴言として炎上したいだろうが、残念ながら冷め切ったババボボーの冷水を浴びたら、風邪を引くのが落ちだろう。

人権や自由、民主主義をやたら叫んでいる(が鳴り立てている)耳障りな連中は、隣国・周辺国の人権や自由、民主主義には全く触れないばかりか、意図的に避けていることから、看板もメッキも全く訴求力を失っている。小銭(日当)稼ぎの言動・行動だと揶揄されても、生活の足しになっているから止めないだろう。哀れでも、嘆かわしくもない。こういうダブルスタンダードを生み出す土壌を作ったのが戦後の偏向教育であり、現政権に繋がる政府の偏向スタンスだからだ。事象の良し悪しを問うても、議論した処で改善は望めない。関心を持って、事実をはっきりと見定めることが最優先だろう。勇気ある発言は以下の動画だ。

https://www.youtube.com/watch?v=YTV_f_YyERk 慰安婦論争
<https://www.youtube.com/watch?v=dEgp-dOrEQM> 竹島(独島)

前章に紹介した『反日種族主義』という書籍は、出版と同時に10万部以上売れたという『反日プロパガンダの嘘の暴露本』だと言う事だ。学者としての良心と、事実に対して正面から取り組めば、『反日無罪・親日有罪の国』に於いては、命さえ狙われかねない。その著者自らが、李承晩TVに出演し、講義形式で語っている。反日社会であろうと、変らないものは事実だ。



李榮薫 教授

折に触れ、人に触れ、様々な興味・関心をもつ事ほど、自己の無限の可能性の扉を開く方法はない。しかし、『長いものには巻かれる』『寄りば大樹の陰』で、ものぐさ・怠惰(思考停止)を決め込んで、マスコミ・政権・政府の言うことを鵜呑みにするか、しないまでも生き甲斐よりも、生き易さを模索する習慣を身に付けて、自己の可能性まで閉じてしまっていないだろうか。



Pure/Thai 第二ステージである『七人の侍Project』の目標と目的は、物品販売による所得倍増計画でも、自助・共助の互助会設立計画でもない。これらは手段であって、第三ステージである『くつろぎのいおりデベロップメント』に照準を当てている。果たせるか果たせないかは、結果論であって、第四・第五と続くステージ構想という目標に向かって、第三ステージを実現させるために、第二ステージを実施する必然性を持って、各位の参加・拡散をお願いしている次第です。

(事実の)全てはつながっていて、第一ステージで掴んだKnow How・人脈・顧客・商品・土地勘(気候・風土)などが第二ステージのベースになり、10年かけて創り上げて来た信頼関係を、より強固なものに結束して行こうというのが狙いでもある。そうする事によって、第三ステージが見えてくる。本誌の連続性も同様で、毎号テーマを変えながらも、流れるものは同じと感ぜませんか?

答えなど、そう簡単に出なくても、出さなくても、分からなくても、一旦立ち止まって考えてみる。忙中の閑をつくって周囲の変化に関心を持ってみる。エロ・グロ・ナンセンスを芸術の名の下に公金を搾取しようとする者を許さない。反日プロパガンダを請け負う、知識人と称する売国奴の実体が明らかになって来ている事実も、つかんでおく必要から以下の動画をご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=yqU_2yQYxp0 チュチュエ思想-1
<https://www.youtube.com/watch?v=VHDOFpuDHs> チュチュエ思想-2

篠原常一郎氏

